

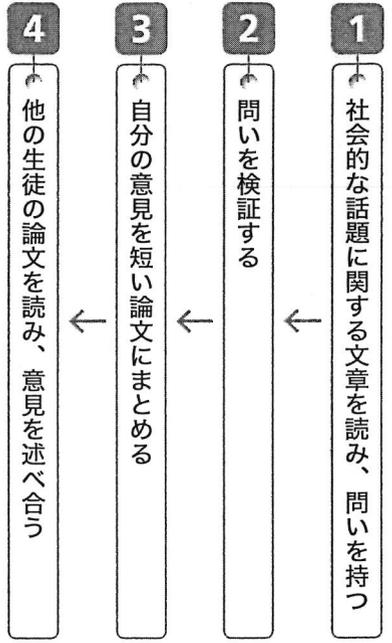
3

社会的な話題に関する文章を 読み、短い論文を書く



社会的な話題について論じた文章を的確に読み取り、その内容に関して問いを持ってさまざまな角度から資料を集め、検証しよう。そして、自分の意見を短い論文にまとめよう。

学習の流れ



物事に対して意見を求められる際に、往々にして好き嫌いから判断してしまうことがある。そして一度判断してしまつと、それを覆す事実を見聞きしても、耳に入らず意見を変えられなくなりがちである。

結論を決めつけずに根拠となる事実を探し、いったん出た結論も、別の事実が明らかになれば常に修正の可能性があると意識する習慣を持ちたい。

そのためにここでは、社会的な話題を扱った文章を読んで、それに対して自分の意見を持つプロセスを学習する。筆者の主張を的確につかみ、論拠や論理展開に対して自分の問いを持ち、情報を調べ、それを論拠に自分の意見を構築するという段階を踏んで短い論文にまとめていく。

活動のポイント

1 社会的な話題に関する文章を読み、問いを持つ

ここでは一九四ページの評論「おじいさんのランプ」を例にして進める。「おじいさんのランプ」は、メディアの変化について筆者が一定の主張を表明している文章である。その前半部分(一九四ページ一行目〜一九六ページ八行目)を的確に読み取り、文章に対する問いを考えてみよう。

(1) 筆者の論理展開を確認する

社会的な話題について何らかの主張をしている論理的文章は、主張とそれを支える論拠から成り立っている。筆者が何を論拠にしてどのように主張を導いているかを整理する。論拠は主に「具体例」と「理由付け」から成る。それぞれを整理することが、次の「問いを持つ」ことにつながっていく。

(2) 文章に対する問いを持つ

整理した論理展開をもとに、文章に対する問いを考える。問いを考える際には、具体的事実に対する問い(情報の問い)、意味が分かりにくいことへの問い(意味の問い)、論拠と主張の関係への問い(論証の問い)の区別を意識しよう。

▼「質問する力」(一五〇ページ)

評論「おじいさんのランプ」前半の主張と論拠を整理した例

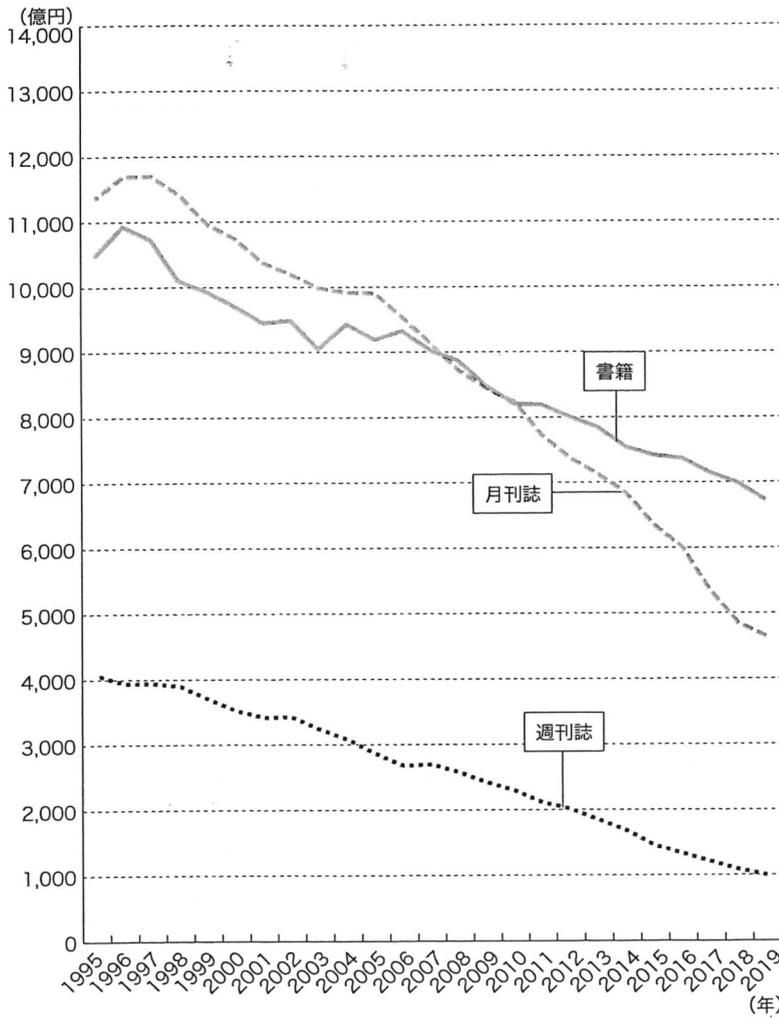
主張 古いメディア(紙の本)にも役割はある、とする説はむしろ害悪。

論拠

具体例 新美南吉の童話「おじいさんのランプ」において、主人公がいざというときに古いもの(ランプ、火打ち石)は役に立たず、ランプが文明開化を象徴する力を失ったと気づいて、ランプ屋を廃業した。

理由付け 時代の役割を感じる知性が本当の意味で文化を守り育てるから。

図1 出版物の推定販売金額



(『出版指標 年報 2020年版』をもとに作成)

資料を調べる。
 問いの中から重要だと考えたものを選び、それについて

2 問いを検証する

評論「おじいさんのランプ」前半の問いの例
 情報の問いの例

- ・紙の本の需要はどの程度減っているのか。
- ・紙の本と電子書籍では読みやすさに差はないのか。
- ・ランプの需要の変化と紙の本の需要の変化はどのような点で同じなのか。

意味の問いの例

- ・「別の次元では害悪」とはどういう意味か。
- ・「本当の意味で文化を守り育てる」とはどういう意味か。

論証の問いの例

- ・ランプと電気の関係と紙の本と電子書籍の関係は同類のものとして論じられるのか。

評論「おじいさんのランプ」前半の問いを検証した例
 情報の問いから次のような情報を調べた。

- ・紙の出版物の販売額の推移を示すデータが見つかった。
- ・一九九五年から二〇一九年で月刊誌は半分に、週刊誌は四分の一に、書籍は三分の二に落ち込んでいることが分かった。(図1参照)

・紙の書籍と電子書籍での読みの速度、記憶度、理解度を説明文と随筆文で比較したデータが見つかった。速度は説明文では電子、随筆文では紙が速く、記憶度は説明文では紙、随筆文では電子が高く、理解度はどちらも紙が高いという結果が示されていた。

論証の問いから次のことがいえるのではないかと考えた。

- ・ランプと電気では利便性が比較しやすいが、紙の本と電子書籍では紙の本にも一定の利点があり、同列には論じられないのではないか。

自分の意見を短い論文にまとめる

文章に対する問いと、それについて調べた資料をもとに八百字程度の論文にまとめる。

(1) 論文の構成を考える

まず論文の骨格となる構成を考える。結論とその論拠に説得力があるか検討する。

論文の構成例

問題提示 紙の本と電子書籍の関係はランプと電気の関係

と異なり、便利さに圧倒的な差があるわけではない

だろうと考え、調べることにした。

具体例 紙のメディアの需要の変化を調べる。

紙の本と電子書籍の読みやすさを比べる。

考察 紙媒体は減少しているが、雑誌と書籍には差がある。

紙の本には理解度の点で利点がある。

結論 紙の雑誌類は徐々になくなると考えられるが、書籍についてはそのよさも残り、残る可能性もある。

(2) 論文を書く

構成案をもとに八百字程度で論文を書いてみよう。

論文の例(冒頭)

評論「おじいさんのランプ」の前半では、紙の本などの古いメディアの役割は終わったと書かれている。その論拠として、ランプから電気への変化と、書籍における紙媒体から電子書籍への変化が同類のものとして取り上げられている。しかし、両者は質が異なるのではないかと……

4

他の生徒の論文を読み、意見を述べ合う

クラスの中で五人程度のグループを作り、それぞれの論文を読んで、それに対する意見を述べ合う。その際、主張とその論拠を整理して読み、説得力があるかどうか検討しよう。

更に、他の人の論文を読んで、自分の意見を修正する必要があるら修正し、よりよい意見を構築するようにしよう。

話し合いの例

Aさん Bさんの論文では、紙の本のほうが理解度が高くなるということを論拠に、紙の本にも利点があると考察していますが、そのデータを見ると、理解度の差はほんの僅かだと思えます。理解度や記憶には差がないのなら、持ち運び、保存、検索などの点で電子書籍には大きな利点があるので、やはり紙の本も電気に対するランプと同じような運命をたどるように感じました。

Bさん そうですね。この差をどう見るかは人によって違うかもしれません。ありがとうございます。私はCさんの論文を読んで、SNSの浸透によって長い文章を書くことが苦手な学生が増えているというデータを……



課題

次の中から一つを選んで、取り組もう。

- 1 「消費されるスポーツ」(九八ページ)を読み、それに対する自分の意見を八百字程度で論じる。
- 2 新聞などから社会的な話題に関する文章を取り上げ、それに対する自分の意見を八百字程度で論じる。

振り返りのポイント

- 社会的話題について論じた文章を読んで問いを持ち、自分の考えをまとめることができたか。
- 文章の論理的な構成を考えて、短い論文を書くことができたか。
- 他の生徒の論文を読んで意見を述べ合い、よりよい意見の構築に生かすことができたか。

